

（運営団体について）

- ・ 運営団体と実施団体の違いが分かりにくい。運営団体とはどういった団体であり、どういった役割を担うのかということイメージできるようにもう少しわかりやすく説明する必要がある。

（活動時間について）

- ・ 活動開始時刻にも影響するが、活動場所が在籍校以外に分散されることに伴い、移動時間に差が出るのが想定される。待機する子どもたちはどのように過ごすのかなどの具体的提示が必要。
- ・ 仮に平日16時から学校敷地内での京クラの活動を始めた場合、17時までが勤務時間である教職員の兼業兼職の課題や、17時の完全下校前に学校に在校生と外部の者が混在することになり、混乱しないような棲み分けが可能かといった課題も大きい。一方で現在の部活動は15時30分から17時といった早い活動時間によって、子どもたちが参加しやすいという点もある。学校や地域の理解も得ながら、子どもたちのことを中心に考えた活動時間を検討していく必要がある。
- ・ また、学校施設を利用する場合は17時以降、学校敷地外を利用する場合は16時から活動を認めるなど、細かな活動時間は各クラブに一任するのも1つかと思う。

（活動定員について）

- ・ 種目や参加者が集中する団体によっては、指導者の確保にも限界があるため、定員を設定してもよいとすべきではないか。応募過多で、仮に抽選で決まるとなった場合、希望の京クラに入れなかった子どもたちはどうするのかなども考えておくべき。

（認定期間について）

- ・ 認定は受けているが、その間に地域クラブ側が、採算が取れない等を理由に単年度で撤退することが無いように最大3年の認定期間としつつも、たとえば5年、6年といった長期のスパンでの継続的な活動が担保されているかといった視点も大事である。

（文化部の活動内容について）

- ・ 子どもたちに積極的に文化活動を選んでもらうために、各分野が単独で活動するだけでなく、例えば「伝統文化」という名目で多数の分野が連携し、一つの実施主体になることも検討しておくべきであり、そのためにも地域クラブの応募条件の確定や子どもたちのニーズの情報提供を早期に行っていくべき。

（指導者について）

- ・ プロの指導者に指導してもらう大切さがある一方で、プロの指導者が少ない分野もあるのが文化活動の特徴。どのように指導者を確保していくのが課題。